

読者の声

前略、「労働者渡世」賞の創設を真心より祝します。

文学の衰弱を憂慮している小生といたしましては、相当の期待を抱いているつもりです。

「限りなく透明に近いブルー」などという退屈なエロ小説に代表される文学の閉 状況を打破しようという、したたかな野望に燃えた人達が続々釜ヶ崎から輩出されることを祈って止みません。

林 衛 (二三才)

(係) 賞の選考の基準は文学的水準をそれほど考慮していませんので期待にそえるかどうかわかりませんが、是非、読んだ感想を送って下さい。

愛の隣りは憎しみか、うまく言ったもんや。

ついでに、カスミ町の教会へ行ったら牧師がなあ、「釜の人間は金の卵や」言っとるねん。その訳はなあ。府から精神病院がごつい金もうて、アル中や行路病死寸前のアッコをオリへたたき込むらしい。その辺、わいは知らんで学者諸氏よ、よう調べていてくれや。釜は釜でエエンや。人間の持っている暗い悪徳を楽しむのに大変都合良く、貧乏人のセガレには天国に近い。わしらを型にはめこむ主張はいやですなあ。変な改良住宅なんか結構。

かつての年中行事(岩田君がよく勉強している暴動)には一度参加してみたい。岩田君の力作を読む度にかっかして来ます。釜中がてんやわんやになる。考えるだけで酒がうまいよ。歴史が前へ進む

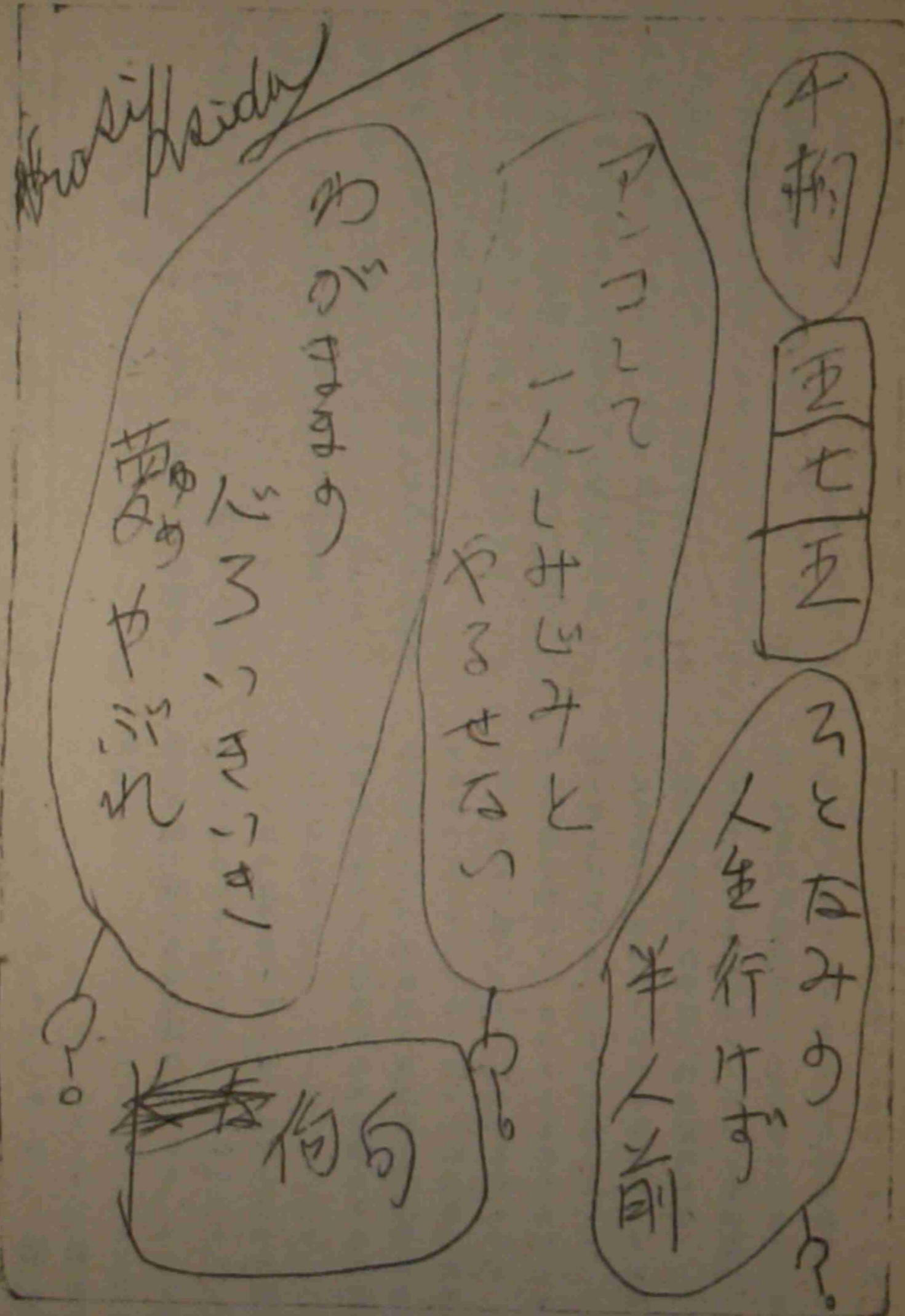
か後退するか知らんけど、その時はガーガー言うて、酒のんで、デカイつらしとるポリ公と渡り合おう。

城崎 慶 (三三才)

(係) アル中(精神病院)行路病(救急病院)など、病気についての特集を次号で組みたいと考えます。体験談や見た話、聞いた話でも結構です。どうぞ投書して下さいね。

加藤 文 (二三才)

(係) この人はハガキの裏が白紙でした。何か書いとってほしかったネ。メンドークサクッタノカナ。それとも何か書いたつもりだったのかな。でも無事ハガキはつきました。今号のハガキに書き忘れたことを書いて是非送りなおして下さい。ハガキをどんどん出して下さい。面白い雑誌にしていくために非常に参考になります。切手は不要です。



岸田 博さん (三九歳)

現場から飯場から

こんなもんでどうや

山王町丸善ホテル経営者

- 1 新今宮駅前センター内にガスストーブ暖房付（早朝用）待合室建設
- 2 飯場にカラーテレビ、灯油ストーブを各部屋に一台ずつ設置（建設K区の寄付で）
- 3 飯場食事を栄養のあるものに改善（食費を千三百円に値上げして五〇%建設K区負担）
- 4 飯場契約を一週間にする（長いと疲れるから）
- 5 飯場労働者に疲労回復薬の支給（建設K区負担）
- 6 出房三分ぬれ七分を、出房五分ぬれ全額に要求
- 7 飯場食事を栄養ある食事にする為、保健所が献立を作って指導、かんとくする
- 8 ドヤに暖房設備と倶楽室（カラーテレビを各階に）を市の長期低利融資で取付ける
- 9 飯場は一日目より千円を貸出す事、請式は出面の目いっぱい貸すこと。
- 10 一日目の作業服、手袋、帽子、地下足袋、靴下を貸す事、建設業組合の無利子融資で用意する事

特別レポート（名古屋より）

水車地区（笹島）の火事

渡世十八号四五頁に書かれている水車地区のレポートさせてもらいます。

火事のあった翌日、名古屋北職安（総合雇用センター）入口付近にはアンコが五人車座になって酒を飲んでいました。その中に小生は顔見知りのヤマさんを認めて声をかけました。

「今晚行くところないんやで、酒でも飲まんとアオカンも出来んよ」
そういつてヤマさんは小生に酒を勧めた。その晩はいつもより路上にたむろする人たちが目立っていました。焼け出された人たちがウロウロしているのです。丁度、中原食堂の前でその長男が新しい木材を運んでいた。小生は自身と同年令の長男の案内で現場を見て回った。火事があったことを外から確認するのは難しい。中原も丸吉も京城館も外側は全く焼けていないのです。しかし、露地を通過して内部を見ると相当酷い。黒こげの柱がニョキニョキと立っているだけで火事のすごさを物語っていました。中原食堂は裏口を少し焼いただ

「ホイホイ、今日、雨ケ」

喜多 渡

秋の雨、

作日の朝十時ごろから降り続いとる。スラブの鉄筋を組んでる時からや。

オヤジは「連休前のアシタ、コンクリやけ雨でもやってくれ」いう。

そやからゆうて、雨の中を上積みもなしにコキ使われてタマルケ。半日でケロジ三〇〇〇でエヤんけ

ウマクやりやアッブのナナマルにはなったんやけど、カエリや手配の組にドナラレルかも知れん

サエン昔者やのお、オトトイもめたんがヒビイトルんかカサをさしてりや、シトシト雨

シゴトをしてりや、シトシト雨のズブヌレツンコレで、今日の阪神巨人戦も流れやな

土日月、三日アブレツツ、キビシイのお。

お、職安の失対のオパンらがカッパきて、五、六人掃除しとらア、オマエらコドモあるんやのお、キパツテや。

アアもお、こんなん書いてられへん。一八〇円のコーヒー二時間、ネエちゃんにらんどら
一八〇〇円で三日いくんぞ、そおはイタケ

けだったそうだが、小生は現場を見て水車地区の崩解を予感した。

市当局は焼けた家の再築を絶対に許可しない方針だから、元通りの水車地区に戻ることは有り得ないでしょう。

一抹のさびしさは感じますが、不法建築である以上、反論の余地はないのです。人斬り五郎こと藤田五郎氏が

住んでいたことのあるという水車も、やがては過去の遺物となる日が、そう遠くない将来やってくるに違いありません。

水車地区の歴史

この水車地区の著しい特徴は、ここが在日朝鮮人の血縁的共同体を形成していることです。一杯飲屋、ドヤなどの所有者は朝鮮人によって占められているのです。水車地区以外にも、すぐ横の六反部落（パタヤの密集地）名古屋駅裏などでは風俗営業を取りしきっているのは、朝鮮人が圧倒的です。

駅裏に行つて辺りを見回すと旅館「新世界」「ヒビジネスホテル」「三福」等、西成との関係を連想させる看板がやたら目につく。実際、この辺りと西成との関係は深いようです。アンコはもとより、「飛田」から流れてきた娼婦を小生は何人か知っていますし、親戚が西成に

いるというのを今までどれ程多くの朝鮮人の方から聞かされたかわからない位なのです。

小生は知りませんが、駅裏は十年程前までは朝鮮人部落がひしめきあって林立していたそうです。

それが昭和四〇年代に入って、市は環境浄化を錦の御旗に、バラックの立ち退きを言い渡し、現在では鉄筋コンクリート製ビル街が出来、食料品関係の店が軒をつらねるようになったわけです。

最近の新聞にも「昔ての暗いイメージが払拭されてきた」とする記事が載っていました。

市の環境浄化はその後も引き続き施行され、国鉄ガード下に終戦直後から建てられた六反部落も去年から強制立ち退きを命ぜられ、解体を余儀なくされています。

今回の水車地区の火事は市当局にとって天の配剤ともいうべきものでしょう。駅裏、六反部落にメドが付き、後は水車だけだったからです。以前にも二回程、水車で火事があったのですが、ボヤで消しとめられています。

(E・人生)

△ 水車地区の概要 ▽

- ◎名古屋市中村区下笹島町、下広井町、南・北弥豆町など ○・三〇七平方キロ
- ◎ドヤ三八軒―二百十四室
- ◎センターに集まる労働者―平均三百三十人
手配師の車―平均二十一台
- ◎飯場の行先―愛知県北部、岐阜県下

(五〇年十二月中村警察署調)

△写真説明▽ 右上―焼けたままの姿をさらしているドヤ。左上―一階は一杯飲屋、二階がドヤになっている。水車地区の一般的なケースである。下―水車地区風景(中村区下笹島)。

